

「マスコミは百害あって一利なし！全国の首長は早く  
ワクチン接種するべきだ！」

令和3年5月26日

●カチューの栗本さんからの質問

各地の市町村において、首長さんたちが密かに新型コロナウイルスのワクチンを接種していたことをマスコミ各社が痛烈に批判していますが、私は、自治体の首長さんたちがウイルスに感染して、倒れてしまったり、最悪の場合、亡くなってしまって、補欠選挙を行わなければならない方が政治空白につながるので、マスコミ各社による批判は、ナンセンスだと思いますが、西田先生は、こちらの件については、どのようにお考えですか？

●西田昌司の答え

先日、京都府知事や京都市長に会った時に、コロナのワクチン接種をまだ受けていないと彼らから聞きました。その理由を尋ねたところ「職権乱用して自分たちだけが生き延びようとしているのでは、と勘ぐられても困りますので」といったことを言うものですから、私は「あなた方はすぐ打たなきゃいけないに決まってるでしょ」と厳しくたしなめました。

今、我々はコロナウイルスとの戦争をやっていると言っても過言ではありません。その時に、指揮官たる京都府知事や京都市長がコロナウイルスにやられてしまったら戦争に負けてしまいますし、そうなったら却って無責任であるのは言うまでもありません。京都府知事や京都市長だけでなく、京都府下の市町村長に対してもワクチン接種を早急に受けるべき旨の通達を出さなければなりません。

行政に携わる人間がコロナとの戦争に負けずに職務遂行するためには、何

よりも彼・彼女らがコロナに感染することなく元気でいてくれなければ話になりませんし、間違ってもコロナで亡くなってしまうようなことになってはいけません（もちろん、だからといって「これを機に家族にも優先的にワクチンを打たせてやろう」なんてことをしたら確かに職権乱用にもなりますので、程度をわきまえるべきではありますが）。非常事態宣言発令という有事の状況にありながらマスコミの批判を恐れて平時の感覚で行政に携わること自体が、責任放棄というものです。

ワクチン接種を受けた首長を批判するマスコミは言語道断でありますし、コロナ禍を奇貨として、ただただ害悪を垂れ流して我々の精神を汚すマスコミから国民は距離を置くべきです（賢明な国民はマスコミに嫌気が差して視聴率はどんどんと下がっています）。特にテレビがひどいですし、コロナの不安を駆り立てることで国民同志がいがみ合って精神が汚されるという、こんな状況からは早く脱しなければなりません。

テレビを観る暇があったら、週刊西田を観て正しい情報を得てください。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>